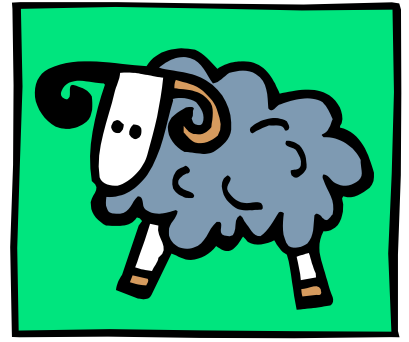


NEWS LETTER



NO.14 2003.3.30

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本

〒658-0016 神戸市東灘区本山中町 4-18-22

☎078-453-5941

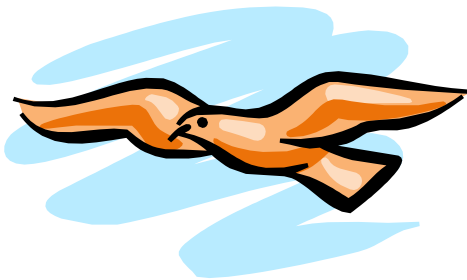
<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

柔

らかな春の陽射しをうけて桜の花びらが美しく輝いています。今年もまた別れと出会いの季節がやって来ました。

神戸商船大留学生の多くが帰国し、彼等の後輩たちが新しくひろばの仲間になり学習を始めています。ある留学生が「もっと早く来ればよかった。ひろばで日本語を勉強して性格が明るくなったみたい。もともと口下手だったのにずいぶんおしゃべりになりました」と支援者に嬉しそうに話して国へ帰ったそうです。もちろん彼の支援者が素晴らしいことはいまでもありませんが、「にほんごひろば岡本」

がそのような出会いの場になれたことにこの上ない喜びを感じています。



さまざまなバックグラウンドをもつ学習者が、日本の学校や職場で、そして地域住民として生活していきます。その学習支援をする私たちの環境もまた色々ですが、それぞれが日本語学習をとおして「よき隣人としての関係」を築き上げようと創意工夫・努力を続けています。ボランティアによる日本語学習支

援の功罪が云々されている現状から目をそむけることなく、ボランティアにこそできることを追求していこうではありませんか。それは決して一様なものではありません。“Person to Person”の良さを活かして、学習者のニーズに沿った有効な学習支援ができるように自己研修を心掛けたいと思います。そうした中で私たち自身が磨かれ、向上していく喜びを味わい、自分に自信が持てるようになってきます。

それが「学習者から元気をもらう」ということなのだと思います。日本語学習をなかだちとして、私たちはお互いの「応援団」でありたいと願っています。

(西村佳子)

◆ Contents ◆

【特集1】学習者・支援者の大健闘！！……2

【連載】学習者・支援者の紹介

学習者の自己紹介……4

【特集2】祝卒業！

学生ボランティアに贈る言葉……7

【その他】第9回ワークショップレポート

恒例お花見へのお誘い……8



【特集 1】学習者・支援者の大健闘！！

★「日本語能力試験」合格者続々！

昨年 12 月 1 日に実施された試験に、ひろばの学習者が多数挑戦しました。

グレッグ・ベンソンさん (USA) 1 級合格

張堅さん(中国) 1 級合格

林軍さん(中国) 1 級合格

その他の受験者もあと一步というところでした。学習者の健闘と支援者の親身の協力に拍手を送りたいと思います。

★吉岡モニカ（紋仁香）さん、無事女児出産！！

ひろばの News Letter に数回登場してくれた吉岡モニカさん（メキシコ出身）が、2003 年 1 月 16 日、市立芦屋病院で無事女児を出産されました。3374g、50cm の元気な赤ちゃんです。吉岡モナミ（紋名美）ちゃんと命名されました。



私たちおばさん支援者はまるで自分の孫？が出来たような気持ちで、早速病院に向かいました。モニカさんは、すっかり落ち着いた優しいお母さんの顔になり、上手にモナミちゃんを抱いていました。

2 年前に遠い東洋の国、日本に一人嫁ぎ、淋しい思いもしたでしょうが、持ち前の明るさと勉強家だったので短期間で上手に日本語も話せるようになり、日本の生活にも慣れてきました。そんな中、待ちに待った妊娠で、とても喜んでいたので思い出します。大きい

お腹を抱えて、日本語のレッスンにも休まず出席し、支援者市川さんにパッチワークを習って、生まれてくる赤ちゃんのおくるみやクッションなどをせっせと作っていました。現在はご主人の仕事で、川崎に引越しましたが、ガンバリ屋の彼女のことですから、きっと子育ても頑張り、関東の土地にも早く慣れて、楽しい生活をすると思っています。モニカさん、おめでとう！そしてこれからも元気でね。ひまが出来たら日本語の勉強も再開して下さい。神戸には世話焼きのおばさん（おばあさん？）たちがあなたのことを見守っていますよ。

※写真のモニカさんとモナミちゃんとても幸せそうです。ひろばにモナミちゃんと遊びに来てくださいね。

★ 黄奕尔（コウイイジ）さん、神戸高校合格！

「私の夢」

私は将来に実現させたい夢がある。それは、お医者さんになることである。

小さい頃、父がお医者さんだったので、よく病院に出入りしていた。患者さんはいつも苦しそうな顔して、父の所にやって来るが、いつも笑顔で帰っていった。それを見て、お医者さんは人を幸せにできるなんてすごいと思って、初めてこの仕事に憧れた。

3 年前日本に来た時、父は色々な事情でお医者さんになれなくなった。その時、私はお医者さんにならなければいけないと強く感じた。1 年前、中三になった私は、これからの進路について真剣に考え始めた。お医者さんになろうと思ったら、理系の勉強をしないといけない。そんな思いで、私は神戸高校の総合理学コースを選んだ。しかし、それほどの学力はなかった。模擬テス



トで「不可能」と判定されたこともあった。悲しんだり、泣いたり、諦めようとしたこともあるが、最後まで頑張って、ついに合格できた。今、改めて考えてみれば、お医者さんは人の命を預かるのであって大変な仕事である。ちょっとしたミスで人を殺してしまうかもしれない。

しかし、私はやはりお医者さんになりたい。その夢を実現させるために、これからはもっと難しい勉強をしないといけないし、沢山の壁にぶつかるかもしれないが、いつまでも夢を捨てずに、「努力は報われる」と信じて頑張りたい。

※神戸高校合格おめでとう！3年前に日本にやって来てからのあなたの努力には、ひろばのみんな頭が下がります。

DREAMS COME TRUE!!

★額田さん 念願のニュージーランドへ

去年の3月から「ひろば」にお世話になっておりましたが、いよいよ来月念願のニュージーランドへ向け旅立つことになりました。

ニュージーランドでは日本語を学習する人も多いようです。以前、羊を見ようと牧場を訪れたときに、運転手をしてくれたニュージーランド人（50歳代？）の方が「私は今、日本語を勉強しています」と言った時には驚かされました。日本語学習者の層の厚さを感じました。

私は次第にこの国に魅力を感じはじめ、この国で暮らしてみたいと思うようになりました。どうすれば住めるのだろうか？合法的に、それも長期間・・・この問題をニュージーランドの移民政策が解決してくれました。人口約380万人（羊のほうが多い・・・）のこの国では人口の増加などを目的に永住権等のビザを発行しています。初めは「永住権って何？」というところからのスタートでしたが、なんとか無事に発行してもらえました。

住む予定のオークランドは港町で坂道も多く、車はそのほとんどが日本車で道路も左側通行。行き交う車を見ていると思わず「ここはどこ？神戸？」と思ったりもします。さすがに住宅地で一軒家が立ち並ぶ景色や郊外の緑の多さには違いを感じますが・・・



今後は現地で日本語教育に関することに携わって行きたいと思っています。

「ひろば」では、西村さんをはじめ皆様方に大変お世話になりました。この1年間皆様とともに日本語学習支援に携われたことをうれしく思っています。

本当にありがとうございました。（額田優）

※体にはくれぐれも気をつけてください。新天地でのご活躍をお祈りします。今後はニュージーランド便りを NEWS LETTER にお願いしますね。

★マッハバさん、女兒出産！

マッハバさんは、去年の12月まで約10カ月、天羽さんの支援で学習していました（NEWS LETTER No11 に登場）。クリスマスパーティーに夫婦そろって参加され、昨年12月29日に千葉県の市川市に引越されました。そして今年の2月26日に女兒ライサちゃん（3400g）が生まれたそうです。



支援者の天羽さんのところに、写真と共にうれしいメールが届きました。母子ともに元気だご主人が伝えてくださいました。

学習者紹介

●デニーさん 男性（アメリカ出身）

日本での生活 楽しんでいます

デニーさんとは昨年2月ににほんごひろば岡本で会いました。教室に入るとニコッと笑ってくれた人なつっこい顔は今でも忘れられません。



アメリカのサンディエゴから仕事を置いて日本にやってきました。アメリカでの仕事は？と聞くと「電気パ

ワー」と言っていました。日本での仕事は「タイム・イングリッシュ」の先生です。生徒は大人から子供まで幅広く、子どもの教室では、お母さんは授業の間買い物やコーヒーを飲んだりしているそうです（私も経験あり）。きっとまじめで誰にでも好かれる優しい先生だと思います。

日本語の勉強は休んだ事がないくらいとても熱心で、一つ一つ時間をかけてあせらず、きっちりと理解して覚えるタイプです。最近はこちらが何気なく使っている日本語を「どうして？」と聞かれたり、予習してきたところを私に説明してくれる時もあります。私もまだまだ勉強しなくてはと励みになります。

1月にかねてから交際中の「あゆみさん」と結婚し、9月に帰国するそうですが、彼女の両親と一緒に過ごしたりして楽しそうです。以前のNEWS LETTERで“とうふシェイク”を紹介してくれましたが、彼はとても料理が上手です。レパートリーはメキシカン、イタリアン etc.です。沖縄のゴーヤが好きでそれを使っの料理もするそうです。ビール好きのデニーさんにとって岡本での行事はとても楽しいようで「今年のお花見はいつ？」と聞かれ、待っていてくれたんだと思うと嬉しくなりました。（市川邦子）
※市川さんとはいつもツーショットでまるで仲良し親子

（いや失礼、本人は姉弟だそうです）のようですね。でも、9月にはかわいい花嫁と共に離日です。その時にはツーショット（正真正銘の）を紹介させて下さいね。

●スティーヴンさん 男性（イギリス出身）

誇り高きイギリス人

スティーヴン・デーヴィスさんを紹介します。彼はその辺にいる日本人の25歳と比べると、とても大人なのです。こういう人が育つイギリスというのは、社会自体が成熟しているのか、はたまた単に彼のご両親のなせるワザなのか…？そのご両親と私はどうも同年代らしいのですが、とても息子とは思えない“こましゃくれ”具合、いや失礼“自己確立度”です。そんな彼から見ると日本人の同世代はかなり幼くてお話にならないみたいで、彼の日本人批判、若



者批判には子を持つ母親として考えさせられることが沢山あります。

イギリス人特有のジョークや飄々とした風貌からは想像できないくらい真面目で、毎晩2時間日本語の勉強をしているとあって、よく難しい質問で私を困らせます。

しかし、彼の抱えている目下の問題はその「知識の泉」にあると思われます。というのは、彼は耳から入った言葉や情報は必ず頭を通してグレードアップしてからでないと口に出せない、気が済まないという誇り高きイギリス人なのです。彼の知性とプライドが邪魔をしている訳です。

〈耳・目〉→〈口〉というくらい彼が知性や理性を欠いていたなら今頃しゃべりまくっていることでしょう。もともと彼はお喋りな人ですし、今彼の頭の中にはこれまで口に出せずにたまりたまったことが

いっぱいでしょうから。スティーヴンさんにとってはとても不本意なことだというのはよくわかっているんですが、敢えて私は言いたいのです「もうちょっとおバカになって！私にあわせて」と。

(古瀬尚子)

※日本人批判や若者批判のお話を甘んじて受けます。機会があればまた、NEWS LETTER にご投稿下さい。

学習者の自己紹介

最初の気持ちに戻ります

姜 東憲 (韓国出身)

私は神戸商船大学の修士課程 1 年生に在学している姜 東憲と申します。去年 4 月、初めて来日してもう 1 年が経ちましたが日本語はまだまだです。

一昨年、結婚しましたが経済的な問題で妻と離れて生活しています。一人暮らしはもう慣れて



ていますが、たまに迫ってくる寂しさが大変になる日もあります。

でも、せっかく外国まで来て勉強するのだから、無駄な時間にならないようにしようと、毎日“頑張ろう”という気持ちで生活しています。

時折、スランプに陥って怠惰の生活になる時もありましたが、韓国で私を待っている人たちを考えると最初の気持ちに戻ります。

日本に来て最初は、言語の障壁にぶつかって、他人の助けがなかったら一人で何も出来なかったことが一番困ったし、悔しかったです。まるで赤ん坊と同じでした。それを乗り越えようと思って日本語の勉強に熱中しましたが、一人で勉強するのも限界があるので、学校以外に日本語を教えてくれる場所を探し始めました。その時、学校の先輩の紹介で、にほんごひろば岡本という場所に初めて出会いました。今は学校が忙しくなって 1 カ月 2 回くらいしか勉強できないですが、ひろばに行って日本語の勉強する

のが非常に楽しいです。

僕の先生“中禮さん”はとても親切だし、日本語の教え方も素晴らしいです。先生と勉強だけじゃなく、日本の生活・文化など色んな話をするのも面白いです。

あと卒業まで 1 年半くらいですが、韓国に帰国する日までひろばで勉強したいです。

支援者紹介

◆**楠内 悟さん**

グローバルな活動を！

私は、今 3 人目の学習者、ドイツから来ているノビさんと一緒に勉強しています。最初は中国の廖(リョウ)さん、二人目はパプアニューギニアのポールさん、と違う国の方たちと勉強しましたが、みなさんとても熱心で、驚かされています。

私はニュージーランドで文化交流のボランティアとして 8 カ月間、3 つの小・中学校で日本語・日本文化を紹介しました。その時、外国の人に日本語を教えたい、日本語教師になろう、と思ったのですが、それにはどうしたらいいのだろう、ということすら分からないまま帰国し、2~3 カ月は時間だけが過ぎていました。日本語教師養成講座に通い始め、そこで、ひろばのボランティア募集を見つけました。どれだけのこ

とができるかも、あったら



ろ、現場に立ってみないと…、という意気込みで始めたのです。

1 対 1 なので、学習者がちゃんと理解してくれているのかを、確認しながら進めることができるし、道がそれで雑談になっても、それはそれで勉強になるので、とても楽しくやっています。学習者は時々、自分の国の言葉だと「こう言う」なんて教えてくれ

るので、ちゃんと教えてもらおうかな…、なんて思うこともあります。もし実現していれば、すでに私は6カ国語も話せるようになっていなくてはならないですよ（笑）。これって、凄いことですよ。いつか叶うといいのですが…。

バーベキューパーティーやクリスマスパーティーにも参加させてもらい、多くの支援者や学習者の方々と会う機会に恵まれ、さらにグローバルな活動ができればいいな、と思う今日この頃です。

やっとこの2月に養成講座を修了し、晴れて日本語教師の資格を手にしたのですが、まだまだ未熟で、自分自身も日々勉強。楽しく日本語を覚えてもらえるように頑張りたいと思います。

※嶋内さんには、昨年のクリスマスパーティーで楽しい折り紙指導をして頂きました。また、ひろばにお雛様も飾っていただいています。少し延長して4月いっぱい飾っていますので、ご覧下さい。

◆長岡美景さん

将来はオーストラリアへ

私は以前からずっとボランティアに興味があって、何か人のためにしたいと思い、西宮の国際交流協会へ行きました。でも結局、私には何の能力もないのだと知りがっかりしました。その時はまさか日本語を教えることになるなんて思ってもいませんでした。

ある日、雑誌でアークアカデミーのことを知り日本語教育の勉強を始めました。そこで「にほんごひろば岡本」のことを知りましたが、まだ教える自信がなかったので長い間迷っていました。

しかし、クラスのほとんどの人が教えていて、学習者のことを楽しそうに話しているのを聞いて、私もぜひ教えてみたいと思うようになりました。いざ教えてみると何からどう教えていいのか分からず、戸惑いでしたが、だんだん慣れていくうちに自信も

ついて楽しくなってきました。

学習も楽しいのですが、バーベキューパーティーに初めて参加したときは、こんな楽しいことがあったのかと感激しました。

これからももっと勉強して、将来はオーストラリアへ行って英語を勉強しながら日本語を教えたいと思っています。

※長岡さんは現在ホセ・アントニオさん（スペイン出身）の支援をされています。

◆田尻あかねさん

岩坪さん、ありがとう！



昨年の10月から、岩坪美穂さんの日本語学習支援を



行うことになりました。まだ、通信講座で日本語教育の勉強を始めた

ばかりだった私にとって、もちろん、彼女が最初の学習者であったことは言うまでもありません。

にほんごひろばの西村さんから「紹介したい学習者がいるので・・・」との電話を頂いたものの、「どんな人だろう?? 全く日本語が話せない人だったら、私には無理かも・・・」と、不安でいっぱい教室へ出向いたのを覚えています。ところが、初めて会う岩坪さんは、2歳になる優ちゃんという可愛い女の子を連れた気さくな方で、その上、かなり上手に日本語を話されました。おかげで初対面だというのに、私たちは同世代の母親どうしという共通項にも恵まれ、あっという間に打ち解け、初めての学習時間も瞬く間に過ぎました。そのうち、子どもを連れて岡本へ通うのが難しいことから、住吉の彼女のお宅へ出向いての勉強が始まりました。

岩坪さんが入れてくれる台湾直送の烏龍茶のおいしいこと！毎回、私も楽しみで、台湾式のお茶の飲み方を教えてもらったりして、どちらが学習者かわからない時もありました。学習は主に、絵本を題材にしてすすめていましたが、岩坪さんが、宮崎駿の

アニメファンで、よく、優ちゃんも交えて、“千と千尋の神隠し”や“となりのトトロ”を見ながら学習しました。通信販売のカatalogを物色しながら勉強したりもしました。

彼女はとても前向きな方で、小さい子どもさんがいて忙しいにもかかわらず、昨年暮の「スピーチ大会に出場します」と言われた時は驚かされました。親しくなるにつれ、日本へ嫁いできてからの出産、育児などの経験談を聞きました。それらを異国の地で経験し、ご主人や周りの人々に支えられ乗り越えていく彼女のたくましさを感じました。

私にもカナダで結婚を控えた妹がいます。妹と岩坪さんが重なってしまうこともたびたびありました。

その岩坪さん一家が、神戸の郊外に念願の一戸建てを購入、3月に引越しをされることになりました。必然的に私との学習もそこで終了するわけですが、6カ月足らずの短い期間でしたが、私にとって初めての日本語支援を無事、楽しく、有意義に終えることが出来たのは、岩坪さんのおかげです。彼女と学習することが出来て本当に良かった！と感じています。

岩坪さん、夏休みになったら新しいお家へ遊びに行きますからね。

また美味しいお茶を入れて下さい！！



【特集2】祝卒業！学生ボランティアに贈る言葉

「ひろば」を支えてくれてありがとう

下田美津子

(松蔭女子学院大学助教授・にほんごひろば岡本副代表)

日本語学習支援に“卒業”という文字は似合いませんが、今年も松蔭の日本語教育専攻生、国文学科・英文学科の幾人かが「にほんごひろば岡本」を巣立っていきます。1999年11月の「ひろば」の立ち上げから3年半、大学生活とほぼ同じくらいの期間、ボランティア活動を続けてきた新しい世代です。特に大学でクラブ活動をする学生が減ってきている昨今、日本語学習支援を地域で地道に続けてきたみなさんには心よりの感謝をささげたいと思います。長い間「ひろば」を支えてくれて本当にありがとう。



「ひろば」が交渉術を磨き、社会性を身につけるための“異文化接触”の場であったことはみなさんにとって貴重な財産になるでしょう。多文化共生というとき外国人との共生だけを思い浮かべがちですが、ほんとうは地域社会の世代・性別の違う人たちとの共生も特に若い人たちにはとても大切なことです。

さて、「ひろば」で育まれた種はこれからどこに飛んでいき、どこに蒔かれて、どのように芽吹いていくのでしょうか。「ひろば」は卒業せず神戸で会社勤め

をしながらそのまま活動を続けているCさん、地元に戻って地域のボランティア日本語教室で学習支援活動しながら、子どもたちの国際理解教育のクラブを作ったKさん、1年間中国で教壇に立ったあと会社員になったYさん、国語教員になる夢をいさながら地元にかえったAさん、アメリカの大学の日本語のティーチングアシスタントになったSさんなど、先輩たちの生き方はさまざま



です。こういう先輩たちのなかから、いつか地域での日本語学習支援の中核を担う人が出てくるかもしれません。

50 数回にもおよぶ学習記録を丹念に丁寧につけ通した人、バザーに出す品物の仕分けを手伝って、すてきなハンドバックにつばをつけさせてもらった人、学習者とうまくいかなくて悩んだ人、教えれば教えるほど日本語教育の面白さに目覚めていった人、今年の卒業生もいろいろです。苦い経験も楽しい思い出もすべてを胸に巣立っていくみなさんに、詩人金子みすゞの「みんなちがって、みんないい」ということばを添えて心から応援のエールを送ります。

※今回、ひろばを巣立っていくみなさんは、一瀬由紀美さん、大家園代さん、河崎涼子さん、西村穂香さん、野村真由美さん、原田まどかさん、春名美咲さん、堀畑由加里さん、錦織亜紀さん、半田和歌子さんです。

第9回 日本語教育ワークショップレポート

「日本語の発音」



支援者の多くがかねてから希望していた「日本語の発音」の講義は松蔭女子学院大学助教授、下田美津子先生の愛弟子である山縣千枝先生にお願いした。3月1日、雨模様の寒い日だったが31名の支援者が参加した。山縣先生は現在、大阪産業大学などで非常勤講師として活躍なさっている。松蔭女子学院大学で日本語教育を専攻され、大連や北京で日本語教育に携わって、帰

国された後は甲南大学大学院で文化人類学を専攻された。

今回のワークショップでは「日本語の発音」についての先生の講義と、支援者が日常抱えている学習者の日本語発音の矯正などに焦点が当てられた。

先生のこれまでの経験に基づいた発音の矯正法が紹介された後は、支援者がどう直したらよいか疑問に思っている学習者の発音矯正をみんなで話し合った。

発音の指導で大切なことは、まず教える側がその違いを理解し、次に学習者にその違いを気づかせ、それを直す練習をしていくことだ。学習者はそれぞれバックグラウンドが違うので、その人の立場を考えて発音指導をしていくこと、学習者を追いつめないで指導することが望ましいということだった。約2時間のワークショップだったが、支援者も活発に発言し、とても有意義な勉強会が出来たと思う。



(佐古田幹子)

恒例 お花見へのお誘い

春よ来い、早く来い と言っていたら、ちゃんと来てくれました。今年もお花見をしましょう。4月6日(日曜日)です。詳しくはまたお知らせします。